博物館のまわりの

これな～んだ？新聞

No. 15
平成 24 年６月号

梅雨の足音が間近に迫ってきましたね。梅雨は私たちにとってはなんとなくジメっとしたイメージで、あまり好まれていないようですが、植物や動物にとっては、まさしく恵みの季節。特に植物は、梅雨を足がかりに劇的に生長します。今回は、そんな植物のみずみずしさを、葉っぱの工作をとおして感じ取ってみましょう。

◆笹舟は、なぜササなのか？

はっぱで遊ぶといえば、笹舟です。どこにでも生えているササを使って簡単に作れるし、小川に浮かべて追いかけた想い出のある方も多いのではないでしょうか。では、なぜ笹舟は、ササで作るのでしょうか？

その理由はまず、形です。適度に細長い形が、船を作るのにちょうどよいのです。では、細長ければ作れるのでしょうか？答えは、ノーです。折った両端を縦に３本に裂きますが、これができるのは、葉脈の方向が縦に並行に並んでいるからです。また、裂いた部分を両側から入れ込みますが、これがちゃんと止まるのは、葉の縁にならんだギザギザのおかげなのです。こうしてみると、笹舟はなぜササで作るのか、理由がわかりますね。

アズマネザサの葉脈（上）
縁のトゲトゲ（下）

◆いろいろな葉っぱの工作

それぞれの葉の形や性質を利用して、工作をしてみましょう。ただし、工作に使う葉っぱは、植物にとっては大切な光合成の工場です。取っても良い葉っぱかどうか、考えて工作に使わなければいけません。ちなみに、笹舟に使うアズマネザサは、博物館の庭では放っておくと地面を覆いつくしてしまい、ほかの植物を追い出してしまう困った存在です。むしろ、葉をどんどん取ってしまいたい植物です。また、バッタをつくるシュロは、もともとこのあたりにはなかった植物です。これも鳥が果実を食べて、フンに混じった種子からどんどん発芽して、どんどん大きくなります。いくら葉っぱを取っても問題ありません。カタツムリをつくるシャガも、花はきれいですが、やはりもともと日本には無かった植物ですし、環境が合うとどんどん増えます。これらの葉っぱは、心おきなく使っても構いません。

ただし、取ってもよい場所かどうかは、その植物の葉っぱをとってよいかどうかとは別の話です。博物館の敷地内では、ミニ観察会以外で植物を取ることはご遠慮いただいています。

シュロの葉でつくったバッタ

次回のお知らせ
ミニ観察会：７月７日（土）11 時から
新聞 No. 16 も同時に発行します。

相模原市立博物館